

## 上伊那地域の整備方向

### 地域農業の特徴と農地の整備状況

#### ○地域農業の特徴

天竜川及び三峰川沿いに広がる平坦部水田地帯と、西部に広がる畑作地帯及び東部中山間地域に大別されます。

##### <平坦部水田地帯>

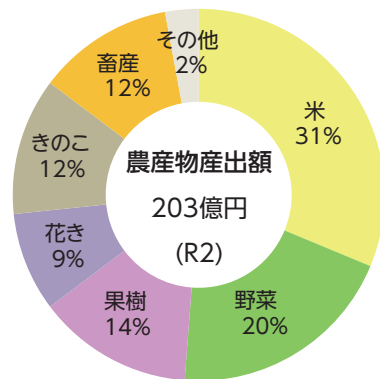
昭和初期から農業水利施設の整備が進められ、安定した農業用水が確保されました。また、昭和40年代から広範囲で行われた県営ほ場整備事業により、農業生産性の向上と農業構造の改善が図られています。

##### <西部畑作地帯>

昭和40年以降に行われた、国営かんがい排水事業や県営畑地帯総合土地改良事業により、畑地かんがい施設が整備されました。ここでは、野菜や果樹、畜産を中心とした農業経営が展開されています。

##### <東部中山間地域>

昭和50年代から小区画ながらほ場整備を実施してきたエリアもあり、水稻を中心に花き栽培等の特色ある農業が営まれています。



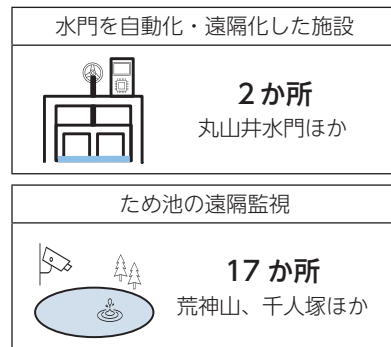
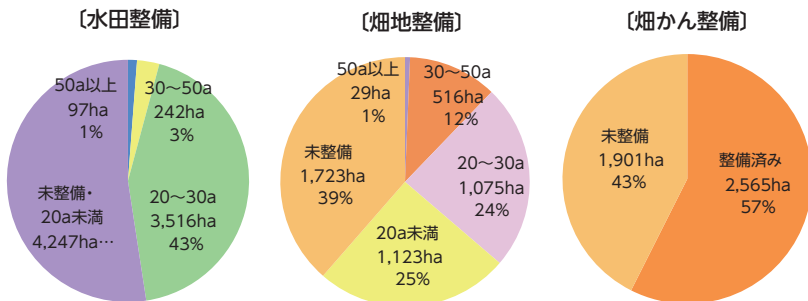
#### ○農地及び基幹的農業水利施設の整備状況 (R3実績)

水田整備率は94.1% (県86.2%)、畑地整備率は61.4% (県35.4%)、畑地かんがい施設の整備率は57.4% (県28.0%) に達し、県全体の整備率を大きく上回っています。

基幹的農業水利施設(用排水路)は延長187kmで、農地の約69%にあたる8,698haがその恩恵を受けています。また、2箇所の水門が自動化されており、維持管理の軽減及び豪雨時の防災・減災効果を発揮しています。

〔基幹的農業水利施設の一覧〕

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	187	22	20	12
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		26	12	1



#### ○ため池の状況

大雨や地震の発生時に安全かつ迅速に農業用ため池の状況を把握できるように、17箇所のため池に監視機器を設置し、遠方で監視を行っています。

地域の現状と課題

- ▷ 農家の高齢化や後継者不足により、営農を継続することが困難な農地が発生しています。担い手への農地の集積・集約化を進めるための区画整理や、用水路、農道の改修による耕作条件の改善が求められています。なお、リニア残土処理に伴うほ場整備が進められています。
- ▷ 自動運転農機の導入や ICT を活用した自動給水栓の導入などによるスマート農業への取組が求められています。
- ▷ 豪雨時の防災・減災、農業用水の安定確保、施設管理の省力化のための水門の自動化・遠隔化が求められています。
- ▷ 農産物の生産や品質確保に必要な農業用水を安定的に確保するため、経年劣化が進行した基幹的農業水利施設の長寿命化対策を計画的に進める必要があります。
- ▷ 農地の多面的機能の維持・発揮に向け、取組が遅れている畑地帯での活動面積の拡大や、地域と協働した新たな活動組織の設立に向けた支援が必要となっています。



老朽化した水路（伊那市 東原地区）



崩落の危険のある水路トンネル  
（飯島町 新井地区）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

○農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数

現状（R3年度）

→

目標（R9年度）

12 か所

13 か所

整備方向

- ▷ 大規模地震時の農業水利施設や第三者への被害を防止するため、高速道路や鉄道を跨ぐ水路橋の耐震対策を計画的に進めます。
- ▷ 生産コストが高い小区画の農地について、大区画化・汎用化等の基盤整備を行うことにより、農地中間管理機構を活用した担い手への集積・集約化を進め、農業の経営基盤強化を図ります。
- ▷ 用排水のパイプライン化等、スマート農業の導入に必要な基盤整備を推進します。
- ▷ 将来にわたって農業用水を安定的に供給するため、機能保全計画に基づく長寿命化を進めます。



耐震対策が必要な高速道路を跨ぐ水路橋（箕輪町 西天竜地区）



小区画のほ場（伊那市 東原地区）

## II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の防災対策工事の完了箇所数	5 箇所		9 箇所
○水門を自動化・遠隔化した農業水利施設の箇所数	2 箇所		4 箇所

### 整備方向

- ▷ 頻発する豪雨や大規模地震による防災重点農業用ため池の決壊等の被害を防止するため、防災工事や、利用しなくなったため池の廃止工事を計画的に進めます。
- ▷ 維持管理労力の軽減や、大雨時における安全を確保するため、農業水利施設の水門等で自動化・遠隔化を進めます。
- ▷ 経年劣化により、地すべり防止機能が低下した地すべり防止施設について、長寿命化計画に基づき施設の補修等を行います。



対策工事及び監視システムが設置されたため池  
(飯島町 千人塚ため池)



自動化・遠隔化された丸山井水門 (宮田村)

## III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○多面的機能を維持・発揮するための活動面積	7,506ha		7,844ha

### 整備方向

- ▷ 農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、地域が協働して取り組む保全活動や、地域資源の質的向上に資する活動を支援します。
- ▷ 「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された3箇所の棚田について、保全・活性化の支援及び魅力の発信に取り組みます。



水路の補修 (箕輪町 長岡地区)



棚田遺産に認定された飯沼の棚田 (中川村)

## TOPICS

## スマート農業の取組

駒ヶ根市の駒ヶ根土地改良区では、平成2年から8年にかけてほ場整備を行いました。1haの大区画整備は県内でも先進的な取組です。

改良区では、この大区画を活かしたスマート農業の導入を検討するため、スマート農業研究会を立ち上げ、全国の取組や農村の情報通信環境等の知識習得、自動運転農機の実証実験を行うなど様々な取組を始めています。



【自動運転田植え機の実証実験（駒ヶ根市 下平地区）】



【スマート農業研究会】

## 農業資産の魅力発信 ～農業用水探検隊～

平成19年度から地域の小学生（4、5年生）を対象に「農業用水探検隊」を開催しています。

市町村や上伊那郡西天竜土地改良区、長野県伊那西部土地改良区連合等と協力し、西天竜幹線水路の円筒分水工や開田記念碑、伊那西部第1揚水機場等の見学会を開催してきました。

令和4年度までの15年間で、4市町村（伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村）の12小学校の児童（延べ3,200人）が参加しています。

引き続き、「農業用水探検隊」を続け、地域の将来を担う子どもたちに、農業水利施設の歴史や役割、農業の大切さを学習する機会を提供していきます。



【記念碑前で西天竜の歴史を学ぶ小学生】



【円筒分水工の仕組みを学ぶ小学生】